

(別紙5)

整理番号 2023P-145

補助事業名 2023年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業

補助事業者名 NPO法人全国精神保健職親会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

障害特性や好不調の波が外見から分かりづらく、対人コミュニケーションに課題を抱えることも多い精神・発達障害者に対する、クラウド型就労支援ツールを活用した就労支援の地域連携モデルの構築を目指す。また、こうした支援ツールの導入が合理的配慮の提供に該当することの産業界に向けた啓発も行う。

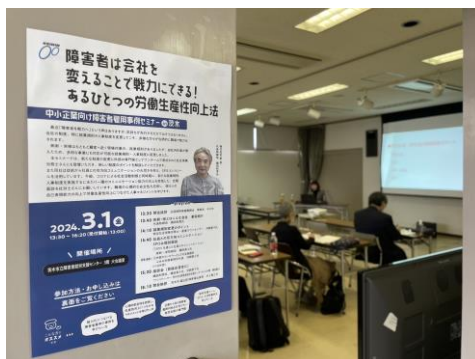
(2) 実施内容

2023年度 JKA補助事業実績／事業完了報告

<https://vfoster.org/cases/> (URL)

1. クラウド型支援ツールの活用に関する地域研修会の開催

- 障害者は会社を変えることで戦力にできる！ あるひとつの労働生産性向上法
中小企業向け障害者雇用事例セミナー in 茨木 (2024年3月1日)



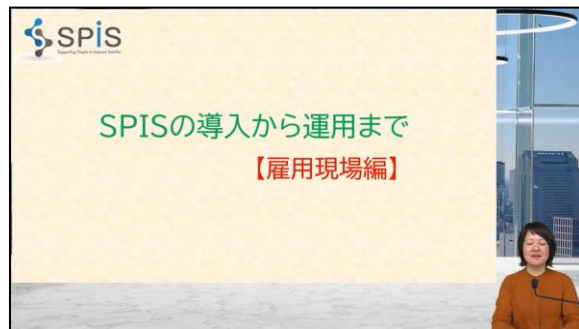
- SPIS京都モデル事業報告会 SPIS活用事例
～「ちょっと丁寧なマネジメント」により戦力につなげる・職場が変わる～
(2023年3月7日)



2. メンタルケアの向上につながる職場内コミュニケーションについて啓発する活動

3. クラウド型支援ツールにかかる啓発コンテンツの制作

- クラウド型就労支援ツール「SPIS」の導入プロセスと運用例の解説動画
- SPIS導入検討時や導入初期のFAQ集
- 活動成果の評価と今後の展開について



4. クラウド型支援ツールの運用OJTの提供

10事業者で合計27名の当事者を対象にOJTを提供



クラウド日報システム 画面サンプル（左：日報入力画面 右：統計グラフ画面）

2 予想される事業実施効果

ここ10年で急増した精神障害者の雇用は、令和4年度の新規就職件数において身体障害者／知的障害者の2倍以上になるなど、今後の障害者雇用の中心が精神障害者や発達障害者になることが予想されている。今後も法定雇用率が引上げられる中、本事業で啓発普及を行っているクラウド型就労支援ツールは、精神障害者や発達障害者の就労支援で重要な役割を果たすことになるであろう。実際、2022年には障害者就業・生活支援センターの事業経費として、支援ツールなどのシステム費用が認められることとなり、センターの支援業務におけるツール活用の後押し要因となることが予想される。また、障害者雇用の「量」から「質」への転換が叫ばれる中、雇用現場においても有効性の高い就労支援ツールへのニーズの高まりが予測される。

(別紙5)

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- クラウド型就労支援ツール「SPIS」の導入プロセスと運用例の紹介動画
<https://youtu.be/8JBMP8UrEBI>
- SPIS導入検討時や導入初期のFAQ集
<https://vfoster.org/spis/>
- 小冊子 「活動成果の評価と今後の展開について」 および そのPDF

上記動画を含む事業紹介と完了報告を行う情報ページの制作（当会ホームページ内）

<https://vfoster.org/cases/>

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： NPO法人全国精神保健職親会（ゼンコクセイシンホケンシヨクオヤカイ）

住 所： 〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-3-4 新大阪高光ビル802

代 表 者： 理事長 中川 均（ナカガワ ヒトシ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

担 当 者 名： 三原 卓司（ミハラ タクジ）

電 話 番 号： 06-6307-1616

F A X： 06-6307-1313

E - m a i l： info@vfoster.org

U R L： <http://vfoster.org>